

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

大学名	神戸大学
構想名称	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム
相手大学等名 (国名)	復旦大学（中華人民共和国）、高麗大学校（大韓民国）

[構想の目的及び概要]

目的

本年5月の日中韓首脳会談で合意されたように、日本・中国・韓国が国際協力体制を整えることは東アジアのみならず世界においても大きな意味を持っている。本プログラムでは、**神戸大学、復旦大学、高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。**具体的には、現在の各大学院のカリキュラムをレビューして、新しいカリキュラムを三大学院間で構築することにより、①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時における**リスク・マネジメントに関わる応用力のある専門的な知識とスキル**、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する**政治・経済・人的資源開発・開発運営を含む社会科学全般の専門性**、③自国語に加えて英語と現地語による**政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキル**を習得して、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて**世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場で活躍できる専門家の養成を目的とする。**

概要

東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故は、その救援・復旧・復興活動には大きな困難が伴い、自然災害やそれに伴う出来事が国境を越えて通貨危機や安全保障問題にも影響を及ぼすことを如実に示した。

神戸大学大学院国際協力研究科では、1995年の阪神淡路大震災の教訓を基礎に**日本語コースと英語コース**の双方にて、自然科学系先端融合研究環都市安全研究センター、人文学研究科等の協力の下、アジア諸国に関わる**経済・法律・政治・教育開発・開発運営・国際関係等の社会科学分野**における講義や演習、そして、都市工学や環境衛生分野における講義や演習を組み合わせた独自のカリキュラムを有し、これまでも多くの修了生を国際連合や**WHO、世界銀行**など、関連する諸機関に送り込む実績を有している。

本プログラムは、このような神戸大学大学院国際協力研究科の国内外での実績を前提に、神戸市に設置されている**WHO神戸センター、人と未来防災センター、アジア防災センター、JICA兵庫国際センター**等のリスク・マネジメントに関わる多彩な研究機関やNPOの諸機関の協力を得て、カリキュラムの拡充を実現し、国際連合、世界銀行、アジア開発銀行、米州開発銀行等、既にネットワークが構築されている**国際機関でインターンシップを実施する**。そして、海外の大学機関等から非常勤講師等を招聘する等、プログラム参加者により充実した教育の機会を提供する。また、このような機関との協働により、本プログラム参加者の実践的かつ実務的な能力向上の機会を提供し、加えてこれらの機関とのネットワーク拡大により、**本プログラム修了者に一定の就職先を確保（WHO、世界銀行、アジア防災センターなど）**できることが期待される。

本コンソーシアムを形成する復旦大学は、中国における国際関係教育の拠点の一つであり、日中関係をはじめとする東アジアの豊富な国際関係及び中国の政治・社会・経済・言語に関わる豊富な教育機会を提供している。一方、高麗大学校は、韓国語と英語コースの双方で、安全保障面と韓国情勢及び政治政策面、経済的危機時における**リスク・マネジメントの研究とインターンシップの機会**を提供することができる。

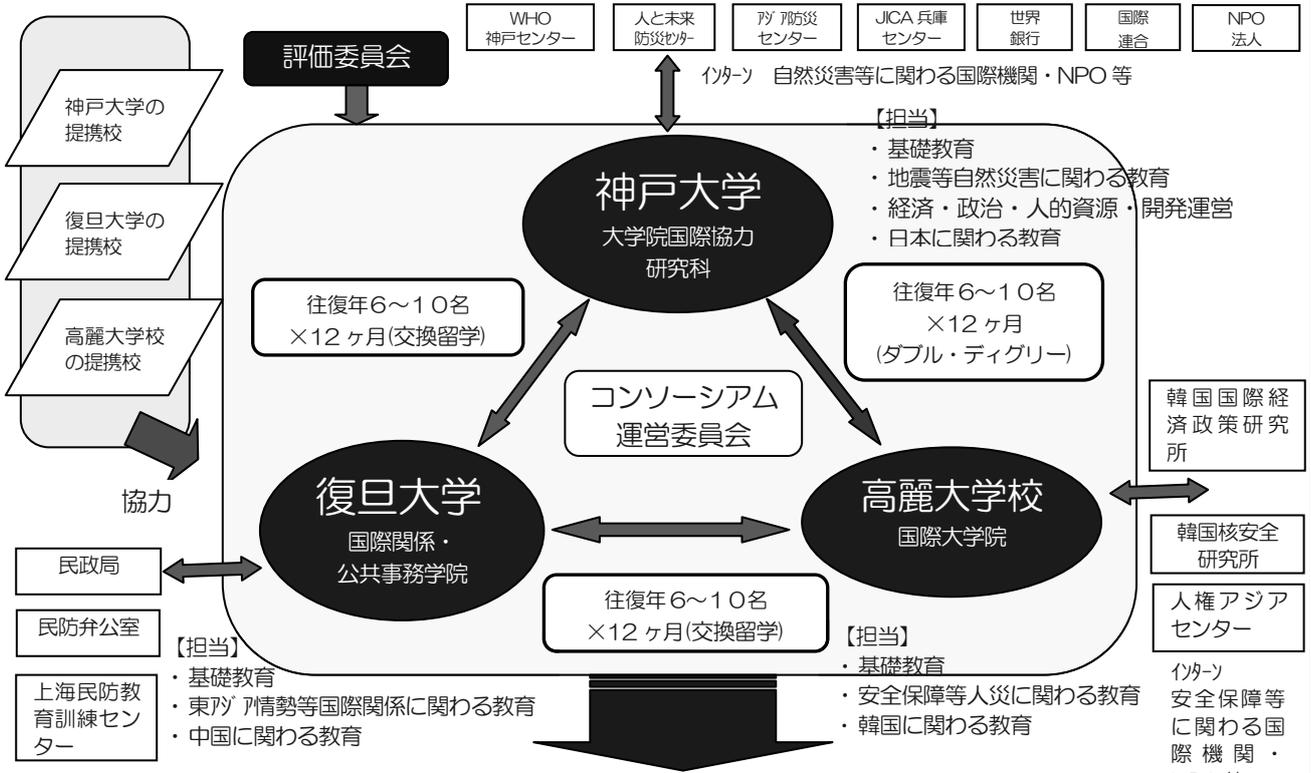
本プログラムでは、**博士前期課程の大学院生**を対象に12ヵ月間、神戸大－復旦大、復旦大－高麗大においては**交換留学**、神戸大－高麗大では**ダブル・ディグリープログラム**を実施する受入・派遣モデルを三大学の協働により開発し、東アジア、また世界レベルで活躍する**リスク・マネジメント専門家**を養成する。本プログラムの参加を円滑化するために、各大学はプログラム参加者に対する**事前教育**を実施する。事前教育においては各派遣先の現地語を学び、異文化を理解し、各派遣先における教育や生活に対応する環境を整える。

本コンソーシアムは、本プログラム参加三大学の構想責任者1名を共同代表とし、これに実施部局の責任者1名及び教員1名、プログラム実施責任教員各1名、各大学の事務職員1名の計15名から構成される**コンソーシアム運営委員会**を設置する。運営委員会においては、各履修コースのカリキュラムの質及び水準、単位の認定基準、成績基準等を協議し同質性を確保し、派遣者の決定やコンソーシアム以外の交流についての審査、決定を行う。なお、運営委員会の他に外部委員を含めた**評価委員会**を設置し、本プログラムの点検・評価を行い、教育の質の保証と向上を図る。

平成23年度 大学の世界展開力強化事業の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

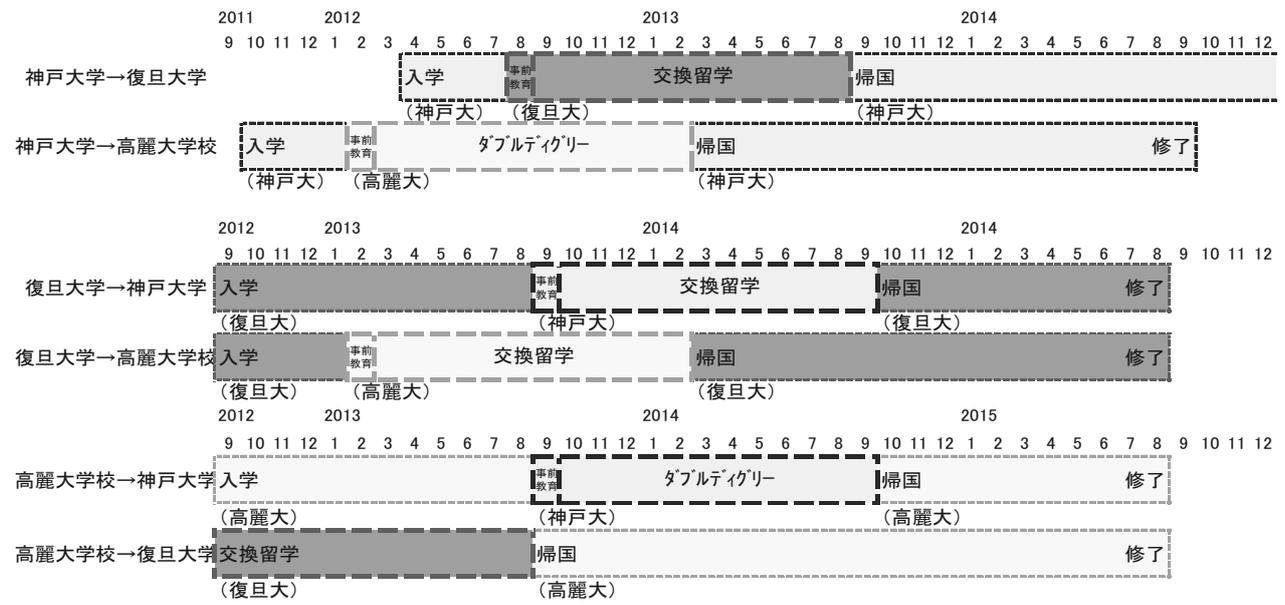
【構想の概念図】

神戸大学・復旦大学・高麗大学校三大学コンソーシアム



【グローバル人材像】①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営等社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。

基本派遣・受入モデル



※本プログラムでは原則3年としているが、2年で修了することも可能である。
例えば、神戸大学では修士論文をレポートとすることにより、2年で修了出来る。

平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	神戸大学
タ イ プ	A-I
構 想 名	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム
<p>〔評価コメント〕</p> <p>本構想は国際協力研究科の特性と実績をもとに提案され、またリスク・マネジメント専門家育成に焦点を当てた点は評価できる。この事業により現在東アジアで求められている人材を養成し、他大学にない独創的なプログラムとなることが期待できる。</p> <p>なお、リスク・マネジメント専門家の定義、またその定義から出される人材育成目標、さらにその目標をどのような教育プログラムによって達成するかが必ずしも明確にされているとは言えない点が懸念される。具体的には、今回の協力校である日中韓の三大学がカリキュラムのコア科目をどのように協力して構築し、他の専門科目の設定、インターンシップ等を含めた履修モデルを提示するのかについて、より具体的に計画し実施されることが望まれる。</p>	